

ちばだい

プレス

千葉大学広報誌

特集 対談

徳久剛史学長 熊谷俊人市長

～「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点・千葉大学」への期待～

特集

トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム

特集

ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2014

vol. **29**
2014 SEPTEMBER

●文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択

上野 コミュニティ再生・ケアセンター長 本日の対談では、千葉大学の「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点千葉大学」の一環として、この10月に運用を開始するサテライトキャンパスを中心に、自治体と大学とでどのような連携ができるのかという点を中心に話し合っていただけだと思います。まずは徳久学長から、「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点千葉大学」についての説明をお願いします。

徳久 「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点千葉大学」は、文部科学省の平成25年度「地（知）の拠点整備事業」に採択されたプロジェクトです。「地（知）の拠点整備事業」とは、「大学COC事業」とも呼ばれていて、地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学への支援が大きな柱となっています。私もが進める「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点千葉大学」の目的も、全学的に地域に根差した教育や研究を行い、地域の課題に対して総合的に取り組む拠点づくりを行うことで、まさに「地（知）の拠点」をつくり出し

市長 熊谷俊人

ていこうとするものです。

熊谷 千葉大学とは、これまでもさまざまな形で連携をさせていただいています。千葉大学と千葉市は、平成22年に包括連携協定を交わさせていただいていますし、「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点千葉大学」のキックオフシンポジウムでも講演をさせていただきました。この10月にサテライトキャンパスが動き出すということで、私も楽しみにしています。（左表1）

徳久 ありがとうございます。千葉大学では、本プロジェクトを推進するために、専任教員と各学部の教員からなる「コミュニティ再生・ケアセンター」を設置しました。本日は、今お話に出たサテライトキャンパスを中心に、本プロジェクトの具体的な取組をご説明させていただきながら、どのような連携が可能なかについて意見交換ができればと考えています。

●さまざまな活動を通じて地域活性化に貢献

上野 続いて、本プロジェクトの活動、具体的にはサテライトキャンパス、地域志向の教育、地域貢献型の研究についての説明を徳久学長お願いします。



平成25年度の文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に千葉大学が採択され、を進めている中、この10月には用を開始します。サテライトキャンパスの期待、千葉大学が進めて、徳久剛史学長と熊谷俊人千葉市長が対談を行いました。

（知）の拠点整備事業」（大学COC全学的に地域志向の研究や教育新たにサテライトキャンパスの運営への期待、千葉大学が進めて、徳久剛史学長と熊谷俊人千葉市長が対談を行いました。

司会進行 コミュニティ再生・ケアセンター長 上野 武氏

徳久 サテライトキャンパスは、廃校となった旧高浜第二小学校の一部を千葉市から借り受け、学生を対象とした地域再生教育や起業支援、地域を対象とした包括的研究、市民と連携したまちづくり活動などを行っていくというものです。運用は今年の10月からで、本プロジェクトの拠点となる予定です。
熊谷 千葉市は、高齢化や学校の統廃合など日本のコミュニティが抱える典型的な問題が生じてきており、ある意味では、日本のコミュニティの縮図と言える地域です。これからの地域活性化では、継続性と専門的なノウハウは欠かせませんから、千葉大学がこういう形で地域に関わっていただけるというのは意義深いですね。
徳久 継続性というのは、私どもも重要な要素だと感じています。そこで、「コミュニティ再生・ケアセンター」の他に学生委員会を立ち上げ、学生の間でもうまくバトンを渡して代替わりできるようにしていきたいと思っています。これは今後に向けた提案なのですが、できれば行政と一緒に取り組めるようなプログラムがあると思います。たとえば学生がアイデアを絞って、政策提言のような形で成果が出たとしても、制度的な制約で実現できないと

特集 対談

市長 熊谷俊人 × 学長 徳久剛史

■表1 「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点千葉大学」の実績と今後の予定

H25. 9.24	コミュニティ再生・ケアセンター設置
H25. 9.30	コミュニティ再生・ケアセンター運営会議第1回
H25.10. 1	連携自治体との協議会準備会第1回
H25.10.28	コミュニティ再生・ケアセンター開所式
H25.11.20	フェイスブック開設
H25.12. 6	地域志向教育研究経費審査委員会
H25.12. 9	FD・SD研修
H25.12.12	コミュニティ再生・ケアセンター運営会議第2回
H25.12.13	ホームページ開設
H25.12.25	地域貢献型研究を開始（25年度 15件）
H26. 1. 9	パンフレット完成
H26. 1.12	キックオフシンポジウム
H26. 3.18	連携自治体との協議会準備会第2回
H26. 3.20	千葉学ブックレット発行
H26. 3	アンケート実施（学生・教職員・連携自治体・NPO法人）
H26. 4	普遍教育課程において、教養展開科目「地域をつくる」に12科目を開講
H26. 5.26	地域志向教育研究経費審査委員会
H26. 5.30	地域貢献型研究を開始（26年度 継続15件 新規3件）
H26. 6.12	コミュニティ再生・ケアセンター運営会議第3回
H26. 7. 4	FD・SD研修
H26. 7.22	千葉市長と学長の対談
H26. 9.25	連携自治体との協議会第1回
H26. 9.25	コミュニティ再生・ケアセンター運営会議第4回
H26.10. 4	サテライトキャンパス開校式・ミニシンポジウム等のイベント開催
H26.10	サテライトキャンパスの運用開始
H26.12	FD・SD研修
H27. 2	コミュニティ再生・ケアセンター運営会議第5回
H27. 2	シンポジウム@松戸
H27. 3	連携自治体との協議会第2回
H27. 4	普遍教育課程において科目群「地域と暮らし」を必修化
	サーティファイケイトプログラム「コミュニティ再生ケア学」開始
H27.10	カレッジリンク・プログラム開始

熊谷市長のおっしゃる継続性とノウハウという観点からも、学生と行政がコラボレートするというのは重要だと考えます。

熊谷 なるほど、これは学生さんにとってもフィールドワークとしていい経験になりますね。千葉市でも、市民シンクタンクのようなものをつくらうとしていますので、そのワークショップの場として利用させていただいたり、行政と学生で定期的にディスカッションしたり、いろいろな可能性があらわれます。ぜひやりましょう。

徳久 ありがとうございます。ぜひ前向きに進めていきたいと思います。続いて、千葉大学の地域志向の教育についてご説明します。柱としては3つございまして、ポランティア学習の単位化、地域に関する科目の新設、そしてプログラム「コミュニティ再生ケア学」の創設です。ポランティアでは、千葉市内のNPO団体に学生を受け入れていただいていますし、地域に関する必修授業「地域コア」は20科目を準備しています。(下表2)

熊谷 千葉大学はこれまでも地域に根差した教育を行ってこられたと認識していますが、「コミュニティ再生ケア学」の構成を拝見して、これだけの規模で必修にしているだけなのはすごいことだと感じています。それから、私も千葉大学では何度か講義をさせていただいたことがありますが、学生の皆さんの考えに直接触れることができる機会はずっとあつていいと考えています。ぜひまたお声掛けください(笑)。

徳久 せっかくこのような地域拠点事業がスタートしなさい(笑)。

●千葉大生ブランドを生かした地域拠点事業へ

上野 大学としての取り組みについて有意義な意見交換ができたと思いますが、今日のお話を通じて、市長の中で今後こうしていきたいといった感想はありましたでしょうか。

熊谷 「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点千葉大学」とは、さまざまな分野で連携できるという印象を受けました。たとえば、市民意見を聞くためにサテライトキャンパスでのワークショップで議論をしたり、市民シンクタンクのような事業とサテライトキャンパスの連携の中で出てきた研究成果を広げて市の政策提言につなげるなど、可能性はいくらでもあると思います。市としても活用させていただきまますので、ぜひ連携して進めていきますでしょう。

徳久 ありがとうございます。最後にありますが、市長にとって、千葉大学の学生はどのような印象でしょうか。また、若い人たちにどのような期待をされていますか。



ましたし、市長と直接対話ができるのは学生にとっても刺激になるはずなので、特別講義のような機会もぜひ設けたいと思います。その際にはよろしくお願ひいたします。

次に、地域貢献型研究についてご説明します。千葉大学では、昨年度から地域の課題を解決するための研究課題を学内で公募し、昨年度に15件、今年度に3件、合わせて18件の研究を支援しています。集まった研究テーマの内容から、「超高齢化系」「住宅・コミュニティ系」など7つの領域を設定していますが、やはり高齢化に関するテーマが目立ちますね。(下表3)

熊谷 千葉大学内でこれだけの多様な研究が進んでいるというのは心強いですね。各テーマを拝見すると、デザインアートや工学、医療、福祉など、さまざまなものがあり、総合大学としての千葉大学の幅の広さを感じます。千葉大学の教員の皆さんには、市の審議会などでもお世話になっていますが、このようにそれぞれの専門分野で地域の問題について関心を持ち、議論していただけるのはありがたいことです。

じゃないでしょうか。地域住民は千葉大生を信頼していると思うので、千葉大学に地域の拠点事業を担っていただければ大歓迎です。若者への期待という点では、若者ならではの柔軟な感性で、さまざまなアイデアを出してほしいですね。とくに千葉市はICT(情報通信技術)を意識したまちづくりに取り組んでいます。こういう新しい分野では若者の発想は欠かせません。市としても、若い職員を積極的に参加させていきたいと考えていますが、「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点千葉大学」に参加される学生の皆さんにも大いに期待しています。

徳久 嬉しいお言葉をいただきありがとうございます。千葉大生は、個人のスタンプドブレイではなく、団結して成果を出せるという点が自慢です。サテライトキャンパスをはじめとする「クリエイティブ・コミュニティ創成拠点千葉大学」でも、その団結力を遺憾なく発揮してくれるものと信じています。

上野 本日はお忙しい中、ありがとうございます。



■表2 「コミュニティ再生ケア学」の主な科目種別

科目種別	普遍教育 指定科目										専門教育(9学部)指定科目				
	講義型					体験型									
	必修		選択			必修									
教養コア科目「地域コア」	地域(再生)の基礎を学ぶ		スキルを学ぶ	多様な分野を学ぶ	教養展開科目(コア関連)					PBL	カリッジリンク	活動実践ゼミ	ポランティア	インターンシップ	各学部(9学部)における地域・コミュニティに関する授業
	地域・コミュニティに関する必修授業	地域・コミュニティに関する基礎的な授業	地域・コミュニティ再生・地域活動に関わるためのスキル取得のための授業	多様な分野・テーマに関する授業	千葉大学カリッジリンク・プログラムを受講する授業	活動テーマを見つけ、事業計画、活動計画を立て、実践する授業	NPO等での地域活動やボランティアを体験する授業	市町村・企業・NPO等の地域・コミュニティに関連する部署におけるインターンシップ							

※サーティフィケートプログラム「コミュニティ再生ケア学」編成(案)から作成

■表3 地域貢献型研究リスト(抜粋)

地域課題(領域)	事業名	学部等
超高齢化系	千葉海浜ニュータウン地区在住転倒予防教室参加者における身体的・心理的状況と生活習慣に関する実態調査	医学部附属病院
	住み慣れた地域で自分らしさを自覚し豊かな日々を生きるための対話促進開放型コミュニティの形成	看護学研究科
超高齢化系 住まい暮らし系	在宅医療のニーズに対応する薬剤師養成事業	薬学研究院
	超高齢化に向けた暮らし改善型認知活動支援の持続可能なサービス提供手法に関する研究	工学研究科
住まい暮らし系 コミュニティ系	千葉大学柏の葉カリッジリンクJr.プログラムの開発	環境健康フィールド科学センター
コミュニティ系 基盤空間系	コミュニティの基盤空間における被害者対応と電話相談支援	専門法務研究科
コミュニティ系	Lived Space(生きられた空間)の創出による地域活性化のための基礎調査	園芸学研究科
地域文化系	アートで育むオルタナティブ・シンキング	教育学部
人権・男女共同参画系	ドメスティック・バイオレンス(DV)の音声感情認識装置による抑止効果の検討	医学研究院
地域経済系	千葉市の地域経済とコミュニティの活性化を目指す教育研究プロジェクト	人文社会科学研究科

対談を終えて

千葉大学は、平成26年10月から千葉市海浜ニュータウンの旧高浜第二小学校の一部をサテライトキャンパスとし、地域課題解決のためのフィールドワーク型活動を開始します。それに先立ち、千葉市役所で熊谷市長と徳久学長の対談が行われました。徳久学長から、サテライトキャンパスでの活動、地域に関する必修科目、地域課題解決型の研究テーマについて、具体的な内容が紹介されました。熊谷市長からは、継続性・専門性を持った総合大学への期待、市民シンクタンクへの協力要請などのお話をいただきました。



コミュニティ再生・ケアセンター長 上野 武

千葉大生の魅力などにも話が及び、市民・行政・大学が一体となった新たな取組を、千葉市と千葉大学が共同で推進していくことが再確認されました。

グローバル社会で活躍する人材を育成するため、文部科学省がスタートさせた第1期にあたる平成26年度選考では221大学、1,700人の応募があり、ここでは留学直前の学生たちに、プログラムの魅力や1期生の声を参考に、ぜひ皆さんも当

官民協働での海外留学支援制度が「トビタテ！留学JAPAN」。書面審査や面接を経て、千葉大学からは12名が選ばれました。留学プラン採用の秘訣、自身の抱負などをインタビュー。プログラムに挑戦してみたいはかがでしょう。

12名の千葉大生が日本代表に!!



特集
官民協働海外留学支援制度

「トビタテ！留学JAPAN」
日本代表プログラム



Tシャツに注目!

吉谷 真子さん
法経学部総合政策学科3年
多様性人材コース(インドネシア)

海外での体験を自分の進路選びに役立てたい

私の留学プランは、アジアの社会保障や教育についてインドネシア大学で学ぶというものです。留学前にもっと自分の研究を深めるべきかどうか迷いましたが、現地での体験はこれからの研究に役立つはずなので、思いきって行って見て、自分の目で見てこようと考えました。卒業後、社会保障や教育といった分野にどう関わっていくかについても、この留学を通してじっくり考えてみたいと思います。

澤井 源太さん
工学研究科建築・都市科学専攻博士前期課程2年
多様性人材コース(インドネシア)

海外での建築体験を今後のキャリアに役立てたい

もともと所属する研究室でインドネシアの過密住居地区の環境改善に取り組んでいたこともあり、実際に現地に住んで建築を行うというプランを立てました。これまでの研究を引き継ぐ形なので、選考では実績や継続性が評価されたように思います。現地に住んで建築に携わるといった体験はなかなかできないので、これからの自分のキャリアに役に立てられるような留学にしたいと考えています。

眞鍋 憲人さん
工学研究科建築・都市科学専攻博士前期課程2年
自然科学系、複合・融合系人材コース(フィンランド)

留学を通して自分のアイデンティティを確立したい

私の留学プログラムは、フィンランドのアルト大学で建築を学ぶというのですが、最後に実際の建築を行うのが最大の特徴なので、応募に際してはそこをアピールしました。プログラム終了後はヘルシンキの設計事務所でのインターンシップも行います。海外の建築を学ぶことが主目的ですが、事前研修で日本発信の重要性を教わったので、日本人としてのアイデンティティも意識したいですね。

安谷屋 樹さん
工学部情報画像学科4年
世界トップレベル大学等コース(アメリカ)

実践を重ねてリーダーシップを身につけたい

「トビタテ！留学JAPAN」に興味を持ったのは、実践的で自由度が高かったからです。文部科学省が主催するマッチングイベントを通して、スタンフォード大学での留学とシリコンバレーでのインターンシップが決まりましたが、現地でもインターン先を探してなるべく多くの経験を積み、海外での仕事の進め方、コミュニケーションの取り方、リーダーシップといったものを吸収していきたいと考えています。

山崎 あかりさん
教育学部生涯教育課程3年
世界トップレベル大学等コース(フィンランド)

交換留学とインターンで専門領域を深めたい

私は生涯教育と芸術が専門なので、芸術教育の盛んなフィンランドを留学先に選びました。東フィンランド大学への派遣留学がメインですが、「トビタテ！留学JAPAN」は実践が選考ポイントだと聞いていたので、美術館やアート施設でのインターンシップをプランに盛り込みました。これから卒論も控えているので、この留学を通して、生涯教育の在り方についてしっかりと模索したいと考えています。

ほか7名のメンバーはこちらの方々

番場 大さん
理学部生物学科4年
自然科学系、複合・融合系人材コース(メキシコ)

山川 傑さん
理学研究科地球生命圏科学専攻生物学コース 博士前期課程1年
自然科学系、複合・融合系人材コース(ブラジル)

内田 和也さん
工学研究科建築・都市科学専攻博士前期課程2年
自然科学系、複合・融合系人材コース(メキシコ)

平井 開汰朗さん
工学研究科建築・都市科学専攻博士前期課程1年
自然科学系、複合・融合系人材コース(ベルギー→フランス)

佐藤 公平さん
工学部電気電子学科3年
自然科学系、複合・融合系人材コース(アメリカ)

北村 有希子さん
工学研究科デザイン科学専攻博士後期課程2年
多様性人材コース(フィンランド)

白鳥 有美さん
園芸学部食糧資源経済学科2年
自然科学系、複合・融合系人材コース(フィンランド→トゴ)

第2期生募集がもうすぐ始まります!

渡航先や期間、内容を自由に組み立てられ、日本代表として留学できる「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」。第2期生の応募受付が10月初旬から始まります。皆さんも自分だけの留学プランで挑戦してみませんか?

応募受付 2014年10月初旬～10月下旬
書面/面接審査 2014年11月～2015年1月
採否決定 2015年2月上旬
公式ホームページ <https://tobitate.jasso.go.jp>

日本代表プログラム(平成26年度第1期)の4つのコース

COURSE 1 (理系)
自然科学系、複合・融合系人材コース
全世界(新興国、世界トップレベル大学等も含む)に留学できます。

COURSE 2 (人文社会科学)
新興国コース
ロシア、中国、ASEAN諸国、SAARC諸国、中東諸国、アフリカ諸国、中南米諸国等に留学できます。

COURSE 3 (人文社会科学)
世界トップレベル大学等コース
世界大学ランキング例で100位以内に位置する大学や、同等の教育レベルにある研究機関に留学できます。

COURSE 4
多様性人材コース
スポーツ/アート/ボランティア/計画はあなた次第。

「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」とは?

実践的な学びを焦点に、自然科学系分野、複合・融合分野における留学や、新興国への留学、諸外国のトップレベルの大学等に留学する学生を支援するプログラム。学生自身が留学プランを自由に組み立てられるのと、各界のリーダーによる指導、支援が受けられるのが特徴です。千葉大学では、在学中の留学を推奨していることから、同プログラムについても学生の積極的な参加を呼びかけ、応募への支援を行っています。



上田 一樹さん

工学研究科 建築・都市科学専攻
建築学コース 博士前期課程2年

建設や住宅施設の完成度を審査する「Engineering and Construction」の項目で2位を獲得しました。コアの中に機能を埋め込み、それを組み合わせることで住宅ができあがるというシンプルな仕組みを評価していただき、私たちの狙いがしっかり伝わったという手応えを感じることができました。グローバルな舞台で、世界を相手に対等の真剣勝負ができたことはいい財産になったと思います。



黒瀧 晃平さん

工学研究科 建築・都市科学専攻
建築学コース 博士前期課程1年

2012年のスペイン大会終了後、より上位入賞を目指して2014年のフランス大会への出場を決めた千葉大学チーム。工学研究科を中心に園芸学研究科、看護学研究科の学生約80名が参加。第一次審査を勝ち抜き、フランス・ベルサイユには20名が渡航。災害からの復興をテーマにした「ルネハウス」を建設し、大会に臨みました。



小原 秀嶺さん

工学研究科 人工システム科学専攻
電気電子系コース 博士後期課程3年

今回は2回目の挑戦ということで、前回のスペイン大会よりも手応えを感じながら準備を進めることができました。前回からの継続メンバーが自発的に動いてくれたおかげで、私は戦略を練ることに専念でき、提案コンセプトがより明確になりました。その結果、最終的な総合順位こそ11位でしたが、3つの項目で入賞し、アウェーの中で日本の存在感を示すことはできたと思います。私は学生としての参加は今回で最後になりますが、2回の参加で得たノウハウを生かすためにも、また、グローバルな舞台で経験を積むためにも、次の世代の後輩たちが挑戦してくれることを願っています。



田島 翔太さん

工学研究科 建築・都市科学専攻
建築学コース 博士後期課程3年



フランスまで応援に来られた徳久学長と参加学生

最終日まで千葉大学の総合1位を示すスコアボード



笑顔でプレゼンテーションする学生

障子のような間仕切りで日本らしさを表現



特集 スペインからフランスへ2度目の挑戦!

ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2014

開催 フランス・ベルサイユ/2014年6月~7月

大会結果

総合順位	11位
Architecture	3位
Engineering and Construction 部門	2位
Electrical Energy Balance 部門	2位



約1000人の観衆を集めて行われた Speed Peer Review

世界各国からテレビやラジオの取材を受ける学生



災害後の迅速な復興を目指す10日間で建設されたルネハウス



SDE2014 in フランス (6/28~7/14) 大会概要

■ソーラー・デカスロンとは?

ソーラー・デカスロン大会は、大学による太陽光住宅の国際コンペティションで、2002年にアメリカで始まりました。名前の由来は、陸上競技のデカスロン(10種競技)。その名の通り、10項目の採点で住宅の性能や技術を競います。各大学は、自国が抱える都市の課題を解決するための提案を行うため、学生にとっては、実践研究を総合的な形にして発表するまたとない機会となっています。

■2014大会の特徴は?

トータル8回目(ヨーロッパでは3回目)となる今回のフランス大会では、ベルサイユ宮殿大庭園内の特設会場に、16か国20チームが住宅を建設・展示を行いました。今大会では、特に「都市デザイン」が大きなテーマとして設定され、太陽光によるエネルギー自給だけでなく、各国の抱える都市問題や移動手段の解決なども審査対象となりました。開催期間は6月28日から7月14日の2週間余り。一般来場者は75000人でした。

千葉大学チームの提案

千葉大学チームは、「ルネハウス」という住宅を提案しました。地震や自然災害で課題となる「エネルギーの供給とコミュニティの再建」を解決するもので、「ルネ」は「ルネサンス(再生)」の略です。住宅を「水廻りコア」「設備コア」「多目的コア」の3つの個別ユニットで構成することで、災害時の迅速・柔軟・高品質な住宅供給を可能としました。ユニットの組み合わせによって集会所やオフィスなどにも変化し、今大会テーマである都市デザインに対応しました。

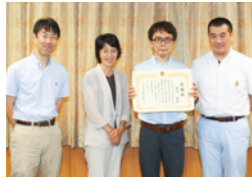
▶ 答えはページ下の「もっと知りたい千葉大学」へ

千葉中央消防署より 感謝状贈呈

AWARD



千葉中央消防署での様子



左から、織田学務部長、久保教育学部副学部長、須田さん、渡邊理事

6月16日未明にアパートが全焼する火事の際に、「通報や避難・誘導等に協力した」として、7月22日、千葉大学大学院教育学研究科学校教育科学専攻の須田峻さんに、千葉中央消防署より、感謝状が贈呈されました。贈呈を受け、8月4日、教育・国際担当の渡邊理事より、記念品が授与されました。

水泳教室を開催

EVENT



千葉大生が指導を行い、熱心に話を聞く子どもたち

カヌー体験の様子

千葉大学では毎年、公開講座として「水泳教室」を開催しています。今年は8月4日、10日の13時〜16時、西千葉キャンパスのプールにて、小学校3年生から中学校2年生までの子どもたちを対象に開催されました。教育学部保健体育科の下永田修二准教授と千葉大生たちが講師を務め、40名程度の参加者に水泳やマリンスポーツを指導しました。8月7日には、カヌー体験が行われ、参加した子どもたちは、楽しそうに過ごしていました。

次世代モビリティパワースource研究センターが竣工

INFORMATION



看板上掲式(左から北村工学研究科長、中谷理事(企画担当)、徳久学長、猿渡理事(総務担当)、森吉センター長)



視察風景(左から北村工学研究科長、猿渡理事(総務担当)、徳久学長、櫻田義孝文部科学副大臣、福島洋経済産業省大臣官房参事官、戸部知子千葉県商工労働部次長の来賓の他、産業界、学界など学内外から約200名が出席しました。)

7月4日、大学院工学研究科附属次世代モビリティパワースource研究センターが竣工し、記念式典が行われました。式典には、櫻田義孝文部科学副大臣、福島洋経済産業省大臣官房参事官、戸部知子千葉県商工労働部次長の来賓の他、産業界、学界など学内外から約200名が出席しました。同センターは、平成25年4月、次世代モビリティパワースourceの研究開発及び実用化の拠点として、産学官連携による世界に先駆けた高効率で低公害の自動車用パワートレインの研究開発及び実証を行う、製品化を推進することを目的として設置されたものです。

関東甲信越大学体育大会で 7競技入賞

INFORMATION



バスケットボール(女子)



バスケットボール(男子)

成績	競技種目
準優勝	テニス(男子)・テニス(女子)・水泳(男子)・水泳(女子)・バドミントン(男子)・空手道(防具)
第3位	バスケットボール(男子)・バスケットボール(女子)・体操(男子)・陸上競技(男子)

8月15日から8月31日にかけて、第63回関東甲信越大学体育大会が開催され、関東甲信越地区の大学から約3500名が参加しました。千葉大学では7つの競技で入賞しました。

男子ソフトボール部 が全国大会に出場

INFORMATION



男子ソフトボール部のメンバー

6月21、22日、関東大学ソフトボール選手権で、千葉大学男子ソフトボール部が、3位入賞を果たし、岩手県で8月29日から開催された全国大会に出場しました。また同部は今年のリーグ戦(2部)優勝、入替戦でも勝利し1部への復帰も決めています。今後さらにより良い成績を残すことができれば、部員一同協力して練習に取り組んでいきます。

「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」と協定を締結

INFORMATION

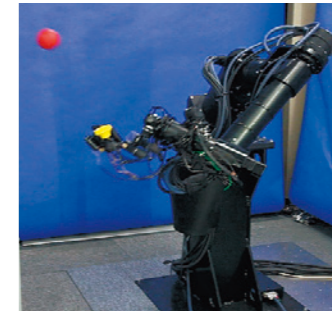


協定書

6月23日、早稲田大学大隈記念講堂にて、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」大学連携協定締結式及び記念シンポジウムが開催されました。本協定は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と全国の大学が連携し、それぞれの資源を活用してオリンピック教育の推進や大会機運の醸成等の取組を進めるために、締結されました。

けん玉ロボットを開発

INNOVATION



けん玉を用いて球をキャッチする瞬間

大学院工学研究科木村明夫准教授は、成功率90%のけん玉ロボットを開発しました。ロボットにけん玉を持たせる際に、感圧センサーとカメラで持ち方を補正し、飛んでくる玉の落下位置を予測して受け止めます。人間の初心者より成功率が高いそうです。今後、ロボットがけん玉を振って玉を投げ上げる機能を追加し、何層も遊べるようにする予定です。こうした技術は、人間の工具を使いこなすロボット開発の実現につながります。

次世代の種~ SEEDSのためのテクノロジーとイノベーションを育てる 千葉大学SEEDS基金

ご支援・ご協力をお願い
チャレンジを支え、人を育てる基金です。

千葉大学SEEDS基金の主な用途は、学生生活環境の整備、教育研究環境の整備、学生への奨学金の支援、国際交流事業の推進などです。

学生、若手研究者がより良いキャンパスライフを送れるよう、ご支援・ご協力をお願いいたします。



渡航助成費により、ソーラー・デカロン・ヨーロッパ2014(フランス)に参加した学生たち

ホームページから寄付の申し込みの手続きができます。
詳しくは <http://kikin-chiba-u.jp/>

「教育学部創設の地」は 亥鼻だった

もっと
知りたい
千葉大学



亥鼻公園にある「千葉大学教育学部記念碑」

1949年、千葉大学が誕生した際、教育学部当時は学芸学部があった場所は、現在の亥鼻キャンパスに隣接する「西猪鼻(現市場町)でした。教育学部の前身である千葉師範学校が、1897年から同地で教育を行っていたためです。西千葉に全面移転する1962年までは、ここの学びが続けられました。この旧校地には、いま県立中央図書館や県立文化会館が建っていますが、「教育学部創設の地」を記念する石碑が建てられています。(国際教育センター見城 悦)

新外来診療棟オープニングセレモニーを開催

INFORMATION



前列左から、佐野太審議官、森英介衆議院議員、河村建夫衆議院議員、櫻田義孝文部科学副大臣、森田健作千葉県知事、熊谷俊人千葉市長
後列左から、山本修一病院長、中谷晴昭理事、齋藤康前学長、徳久剛史学長、横須賀収医学研究科長、宮崎勝前病院長



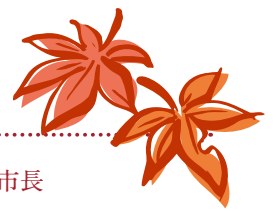
新しい外来診療棟

7月6日、千葉大学医学部附属病院は、7月22日に開院した新しい外来診療棟のオープニングセレモニーおよび見学会を、櫻田義孝文部科学副大臣、森田健作千葉県知事など、各方面の関係者200名の来賓のもと盛大に開催しました。新しい外来診療棟は、地上5階、地下1階建てで、面積が従来の約2倍(18342平方メートル)に拡大しました。診察室は、外来患者さんの増加と診療の外来へのシフトに対応し、154室から209室に増加し、内科や外科の区分をなくした「臓器別外来」をはじめ、複数の診療科が連携して診療にあたる「高齢者医療センター」「糖尿病コンプライケーションセンター」など、縦割り診療を廃した先進的な医療に取り組んでいます。

vol. 29



I N D E X



- 02 特集 対談 徳久剛史学長×熊谷俊人市長
地域の課題解決に向け千葉市と連携。
この秋、サテライトキャンパスがオープン!
- 06 特集 トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム
日本代表の学生に、
留学直前の意気込みを聞きました!
- 08 特集 ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2014
フランス・ベルサイユでの千葉大生の
活躍をレポート!
- 10 TOPICS/もっと知りたい千葉大学